



お薦め本の魅力紹介

学生らビブリオバトル

総社

お薦めの本の魅力をお薦めの本の魅力をアピールし合い、読みたくなった本の「チャンピオン」を決める書評合戦「ビブリオバトル」が2日、宮脇書店総社店のコミュニティスペース「Kiit

os」(総社市井手)で開かれた。県立大(同市窪木)と就実大(岡山市中区西川原)のビブリオバトルクラブが同書店の協力で開催。両大の学生や出版社の社長ら本好きの8人が本を紹介する「バトラー」として登壇し、お薦めの本

を1人5分の持ち時間で、その本との出会いやエピソードを交えて紹介した。投票の結果、原書房(東京)の成瀬雅人社長が「単に列車に乗るだけ、いや乗る前の話が7割だが、不思議と引き込まれてしまう」などと推した「第一阿

房列車」(内田百閒著)が「チャンプ本」に選ばれた。

「本のエンドロール」(安藤祐介著)を紹介した岡山理科大3年横山智さん(21)は「一日ごろ手に取るものがない本に出合えるのが魅力。バトラーの熱量を感じた」と話していた。

バトル後、成瀬社長、柏書房(東京)の富澤凡子社長、同店の三宅誠一社長が出版社や読書などをテーマにトークショーを繰り広げた。(古川和宏)